

[令和5年度総括評価表]

(学校名：徳島県立池田高等学校辻校)

重点目標	課題	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
進路指導の充実とキャリア教育の推進 1 生徒に卒業後の目標を持たせる。 2 基礎学力の充実を図るとともに、さらなる学力の向上をめざす。 3 進路を開拓するとともに、キャリア教育を推進する。	1) 望ましい生活習慣と学習習慣の確立 2) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な育成 3) 一人一人の状況把握ときめ細かな支援 4) 体系的な進路指導の推進 5) 文武両道の奨励 6) 学校図書館を活用した読書活動の推進	評価指標 1) ①保護者・教員アンケート「きまりやマナーを守るなど、生活指導に力を入れている」・「生徒の基本的な生活習慣を確立できている。」 80%以上 ②家庭学習時間 平均2時間以上	評価指標の達成度 1) ①保護者 82.2%、教職員 93.8% ②平均 2.0 時間	総合評価 (評定) B (所見) 概ね目標を達成しているが、「授業内容はわかりやすく工夫されている」評価が高い割には、G T Z や検定合格率に結びついていない。ICTの活用など、更なる工夫・改善が必要である。 また、資格取得の意義やメリットを周知し、検定の受検回数や合格率を上げるための意識付けを行う必要がある。 図書の年間貸出冊数が増加し、読書活動を推進できた。一方、朝の読書の時間を活用して本をよく読んでいると回答した生徒が減少した。引き続き読書習慣の定着や読書意欲を高める取り組みが必要である。	・各年次において、進路ガイダンスや講演会を開催しているのが評価できる。 ・能率手帳を有効に活用し、学習時間の確保に努めたことは評価できる。 ・検定合格者を増やすために、受検料をPTA会費から補助するなど、検定受検者を増やす試みをしてみてはどうか。 ・図書室が5階にあり、生徒の教室から遠いようだ。利用者増加のために、教室近くに移動図書室を設置してみてはどうか。
		2) ①生徒アンケート「授業内容は分かりやすく工夫されている」 80%以上 ②1月実施の業者テストにおけるG T Z D 2ー、D 3の者 20%未満	2) ①生徒 95.4% ②生徒 29.0%		
		3) ①生徒アンケート「担任等との面談が充実しており、自分の考えを伝えやすい環境である。」 80%以上 ②生徒・保護者アンケート「進路に関する情報の提供は適切に行われている。」 80%以上	3) ①生徒 80.1% ②生徒 91.4% 保護者 89.6%		
		4) ①生徒・保護者アンケート「学校は進学・就職の指導に力を入れている。」 80%以上 ②一人あたりの検定受検回数 3回以上	4) ①生徒 92.3% 保護者 86.9% ②一人あたりの検定受検回数 2.7回 合格率 R3 → R4 → R5 漢検・日本語検定 45.5% → 42.7% → 50.5% 数検 受検者なし → 受検者なし → 受検者なし 英検 37.5% → 25.0% → 60.9% 商業 67.5% → 65.6% → 55.9% 家庭 89.3% → 84.4% → 84.1%		
		5) ①図書館主催のイベント開催回数 各学期に1回以上 ②年間の貸出冊数 1人平均2冊以上 (漫画・雑誌を除く)	5) ①各学期に1回以上実施した。 ②年間貸出冊数 1人あたり平均 4.45 冊。		
		活動計画 1) ①遅刻防止や挨拶の励行、服装・頭髪などの身だしなみについて指導を行い、基本的な生活習慣の確立を図る。 ②能率手帳を活用し、家庭学習時間の確保を図る。	活動計画の実施状況 1) ①毎月実施している全校集会後に、服装・頭髪指導を各学年ごとに実施した。ほぼ良好であった。遅刻者は昨年度よりやや増加した。 ②能率手帳を定期的に確認し、学習時間の確保に努めた。		
		2) ①各教科でICTを活用した授業を実施するなど学習指導方法の工夫や改善を行い、分かる授業の実施に努める。 ②4月・9月・1月に実施する業者テストの結果を活用した補習や課題の提示を行い、基礎学力を身につけさせる。	2) ①各教科でタブレット端末や電子黒板を活用し、生徒の意欲喚起と授業理解の促進に努めた。 ②各年次及び各教科担当で実施した。		
		3) ①個人面談・三者面談を実施し、生徒が進路について、主体的に考え行動する姿勢を育てる。 ②三者面談を通じて適切な進路情報や資料を提供し、個々の進路希望や適性に応じた進路指導につなげる。	3) ①個人面談は各年次とも必要に応じて実施した。 ②3年次生の保護者を対象にした進路説明会を開催した。		
		4) ①教科「産業社会と人間」や「総合基礎」、「総合的な探究の時間」、講演会・個人面談を活用して、発達段階に応じた進路指導を実施し、目標の設定や学習意欲の向上につなげる。 ②各種資格の取得や検定試験の受検を奨励	4) ①各年次において、発達段階に応じた進路ガイダンスや講演会を実施した。 ②国語、英語、家庭、商業の各教科で各		

	し、合格率の上昇につなげる。	種検定に取り組み、授業でも合格を目指した学習に取り組んだ。		
	6) ①調べ学習や読み聞かせを通して、図書館の積極的な活用を推進する。 ②「朝の読書」の実施や学級文庫を活用し、読書習慣を定着させ、読解力や理解力の向上を図る。	5) ①国語をはじめさまざまな授業で使用した。また全校読書会を実施した。 ②「朝の読書」は担任・副担任で実施した。		

	評価指標	評価指標の達成度	(評定)			
<p>人権教育の推進と学習環境の整備</p> <p>1 人権を尊重し、ともに支え合う仲間づくりを推進する。</p> <p>2 快適な学習環境を整備する。</p>	1) 人権教育の組織的な推進体制の充実	1) ①教職員アンケート「計画通り実施できた。」 80%以上 ②人権新聞の発行回数 5回以上	B	<p>・「相談に学校は誠実に対応してくれる」が80%以上あることは、評価できる。</p> <p>・危険箇所の把握・避難訓練等、防災意識の向上に努めていることが評価できる。</p> <p>1) 人権新聞の家庭への持ち帰りを徹底する。</p> <p>2) P T A 人権教育研修会は、保護者の参加につながる日程設定や内容の再検討を図る。</p> <p>3) インターネット等による人権侵害について、生徒の実態に応じた指導を行う。</p> <p>4) 生徒情報交換会や学年会と共にケース会議で支援の方法を検討し、複雑多様化している生徒の悩みに適切に対応できるように努める。アンケート調査については、悩みを抱えていても記入していないケースがあり、アンケートだけに頼らず定期的に面談をするなど、工夫する必要がある。</p> <p>5) 救命措置シミュレーション研修を実施しても救命処置に不安感を持つ教職員に対して個別の研修を実施する。</p> <p>6) 引き続き清掃活動に重点的に取り組む。次年度は、研修会館及び南館の雨漏りへの対策、教室及び廊下のPタイル貼り替え、その他老朽化した箇所への対応を行い、快適な学習環境構築に努める。</p> <p>7) 引き続き、防災訓練、防災研修会等の防災教育の充実に努め、災害に対処する。また、啓発活動の充実に努めるため、防災コーナーの掲示物内容充実を行う。</p>		
	2) 人権問題について正しい理解を図る啓発活動の実施	2) ①保護者・生徒の参加者数 各4名以上 ②教職員アンケート「人権講演会やP T A 人権教育研修会を行い、その後のホームルーム活動や啓発活動に活用できている。」 80%以上	2) ①参加希望者なし。P T A 研修実施せず。 ②教職員 100%		(所見)	
	3) 情報モラルの育成	3) ①校内でのインターネット・携帯電話・スマートフォンによるトラブル相談件数 2件以下 ②教職員のセキュリティポリシー研修 3回以上	3) ①0件。 ②3回実施した。		<p>安心・安全な学校環境の整備について肯定的意見が、生徒92.2%、保護者86.0%で目標を達成している。新型コロナウイルス等の感染症流行状況に応じた環境の整備、生徒情報交換会、救命措置シミュレーション研修、環境衛生検査後の施設改善などが、生徒の安全・安心な学校環境作りと救急処置体制の整備につながったと思われる。しかし、教職員のAEDを用いた救命処置が100%の目標を達せず、研修の強化をしていく必要がある。「生徒・保護者の相談に学校は誠実に対応できている」について、肯定的意見は生徒が82.7%、保護者80.3%と目標を達成した。複雑化する生徒の悩みに対して、教職員、保護者、専門機関と連携しながら支援してきたためだと思われる。毎日の清掃活動、とくしまGXスクール活動等により、清潔で快適な学習環境の整備ができた。</p>	
	4) 生徒の悩みやいじめの早期発見と適切な対応	4) ①生徒・保護者アンケート「相談に学校は誠実に対応してくれている」 80%以上 ②アンケート調査の実施回数 年2回以上	4) ①生徒82.7% 保護者80.3% ②2回実施。			
	5) 安全・安心な学校環境の提供と救急処置体制の確立	5) ①生徒・保護者アンケート「救急処置体制の確立などで、安心・安全な学校環境の整備が図られている」 80%以上 ②教職員アンケート「AEDを用いた救命処置ができる」 100%	5) ①生徒92.2% 保護者86.0% ②教職員93.8%			
	6) 清潔で快適な学習環境の整備	6) ①生徒・教職員アンケート「真面目に清掃に取り組んでいる」 80%以上 ②生徒・教職員アンケート「ゴミの分別ができています」 80%以上	6) ①生徒94.8% 教職員87.6% ②生徒94.0% 教職員81.3%			
	7) 災害等に対処できる教育の充実	7) ①校内巡視の実施回数 毎日1回以上 ②防災避難訓練の実施回数 年2回以上	7) ①1回以上実施した。 ②1回実施。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		1) ①「本校の人権教育」に沿ったホームルーム活動、啓発、研修を行う。 ②人権新聞を発行して、人権意識の高揚を図る。	1) ①ホームルーム活動、啓発、研修の計画を一部変更して実施。 ②人権新聞は人権委員会と人権研究部で協力して発行した。			
		2) ①P T A 人権教育研修を実施し、啓発活動を図る。 ②人権講演会の実施により、生徒の人権意識の高揚を図り、保護者・地域の方々への啓発を行う。	2) ①参加希望者なし。P T A 研修実施せず。 ②人権映画会の実施後、生徒に感想文を書かせ、人権新聞でその感想を紹介するなど、生徒の人権意識の高揚を図った。保護者等の参加はなかった。			
		3) ①授業やホームルーム活動、「人権の日」などを通して、情報モラルの重要性の理解に努める。 ②情報セキュリティポリシー実施手順に沿ったネットワーク運用を行う。	3) ①ホームルーム活動の時間に、全年次においてインターネットによる誹謗・中傷に関する動画を視聴し、その恐ろしさや違法性について学習した。 ②各学期1回以上研修を実施。			
		4) ①情報交換会・年次会等で職員間の情報交換を行い、支援を必要としている生徒の早期発見に努め、共感的態度で対応する。	4) ①全職員参加の情報交換会を年度初めに行い、各学期に1回、生徒情報交換のための年次会を行い、困り感のある生			

		<p>②学校いじめ防止基本方針に則り、アンケート等を実施し、いじめの早期発見と適切な対応を行う。</p> <p>5) ①安全点検、学校環境衛生検査により不備な箇所を把握改善し、望ましい環境下での学習能率の向上や、健康の保持を図る。</p> <p>②救命措置の必要な場面を設定したシミュレーション研修を実施し、実践力の向上を図る。</p> <p>6) ①全生徒・職員によって清掃活動を徹底し、教室・廊下等の整理整頓を励行する。</p> <p>②とくしま GX スクールの活動を通してゴミの分別を徹底し、エコ意識の向上を図る。</p> <p>7) ①毎日校内巡視を行い、危険箇所等の把握に努め、安全・安心な学校環境の提供に努める。</p> <p>②防災避難訓練を実施し、生徒・職員の防災対応能力を高め、災害時には自分の身を守るだけでなく、周囲への配慮ができる資質を育てる。</p>	<p>徒の共通理解と対策の検討を行った。</p> <p>②生活アンケート調査を7月と12月に実施したが、記述に問題行動・いじめ等の事案は見られなかった。</p> <p>5) ①点検、検査により見つかった不備な箇所は全て改善した。また、新型コロナウイルス感染症対策として、サーキュレーター、空気清浄機を導入した。</p> <p>②心肺停止、熱中症の2ケースを想定した救命措置シミュレーション研修を実施した。</p> <p>①大掃除や毎日の清掃に真面目に取り組めた。清掃活動やごみの分別に94.8%の生徒が真面目に取り組んでいると答えた。</p> <p>②ゴミの分別はある程度できた。エコ意識の向上のために、紙のリサイクルに取り組み、紙の消費量は過去4年間平均7.1箱に比べて今年度は6.6箱であった。なお、水道使用量は過去4年間平均より10.3%減少、電気使用量は3.2%の減少であった。</p> <p>①校内巡視は、毎日複数教員で実施し安全・安心な環境作りに取り組んだ結果、問題行動の未然防止につながった。</p> <p>②防災学習を実施し、避難経路について再確認をするなど、防災意識を高めた。</p>		
--	--	--	---	--	--

<p>地域に根ざした信頼される学校づくりの推進</p> <p>1 開かれた学校づくりを行う。</p> <p>2 地域に根ざした学校運営を推進する。</p> <p>3 保護者との信頼関係を構築する。</p>	<p>1) 家庭や地域社会への積極的な情報発信</p> <p>2) P T A 活動の活性化</p> <p>3) ホームページを利用した広報活動充実</p> <p>4) 地域との連携の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>1) ①学校開放日 年間実施回数2回以上</p> <p>②学校運営協議会 年間実施回数2回以上</p> <p>2) ① P T A 新聞「薦の葉便り」の発行回数 年2回以上</p> <p>②保護者の学校行事参加回数 年2回以上</p> <p>3) ①教職員アンケート「迅速に辻校のホームページに情報を掲載できている。」 80%以上</p> <p>②教職員アンケート「同窓会のホームページは充実している。」 80%以上</p> <p>4) ①生徒の辻駅清掃ボランティア活動への参加 全校生徒の50%以上</p> <p>②保護者アンケート「地域と連携し、開かれた学校づくりに努めている」 80%以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1) ①「とくしま教育の日」等を含め5回以上実施した。</p> <p>②3回実施した。</p> <p>2) ①7月と2月の年2回発行した。</p> <p>② P T A 総会、芸術鑑賞会等への保護者参加があった。</p> <p>3) ①教職員100%</p> <p>②教職員87.5%</p> <p>4) ①本年度は1・2学期に実施。3学期も実施予定である。2・3年次の参加率は68%であった。</p> <p>②保護者76.6%</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>「学校ホームページ」は頻りに更新することができた。PTA 総会は保護者の約33%が出席した。薦の葉祭については、文化の部で4年ぶりに一般公開ができ、200名を超えての来場者があった。校外のボランティア活動は、福祉施設等での活動を実施することができた。辻駅周辺の清掃ボランティア活動の参加率は、1学期は3年次生80%、2学期の2年次生は57%という割合であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校開放日を5回以上実施したのは評価できる。 地域と連携した防災事業は評価できる。 池田高校本校・辻校・三好校の連携をすすめてほしい。台湾の姉妹校訪問などと、連携事業を絡めてみてはどうか。 三好林業イノベーションセンターに、以前のように辻校の生徒を来させて欲しい。 オープンスクールや夏季休業中の中学生体験入学などが、中学生に進路の参考になる。中学校と高校で授業を共有してみてはどうか。 	<p>1) 学校行事やホームページを活用するなど様々な方法で辻校の取り組みを知ってもらおう。</p> <p>2) 行事等を通じて、保護者や地域との関係を強化することが課題である。</p> <p>3) 部活動や各種大会での活躍は、今後も学校のホームページや薦の葉便りなどを通じて積極的に発信する。</p> <p>4) 今年度充実した各種地域連携事業を、今後も継続して取り組む。</p>
		<p>活動計画</p> <p>1) ①学校開放日に授業を地域の人たちに公開する。</p> <p>②学校運営協議会を開催し、授業公開や意見交換を行う。</p> <p>2) ① P T A 新聞「薦の葉便り」を通じて生徒の活動、学校行事等の状況を知らせる。</p> <p>②魅力ある P T A 行事を催し、保護者の積極的参加を促す。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ①保護者に案内・公開し、行事によっては参加していただいた。</p> <p>②昨年度より本校・三好校との合同開催となり、実施できた。</p> <p>2) ①7月と2月の年2回発行した。</p> <p>② P T A 総会に併せて年次会を実施する等工夫し、保護者へ積極的参加を促した。</p>			

			た。 蕨の葉祭は文化の部では一般公開、体育の部では保護者のみで実施できた。	ピアノコンサートや災害ボランティアセンター設置訓練へ地域住民が参加し、なでしこ祭りや防災講演等の地域イベントに生徒が参加するなど、地域と連携を図った。	
	3) ①教職員への研修を行い、ホームページのコンテンツの充実に努める。	3) ①全ての教職員に HP の ID と PW を設定して、多くの教職員が HP を更新できるようにした。	②総会の同一日にピアノコンサートを行い、HPでの広報及び参加者募集を行う等、コーナーは充実した。		
	②ホームページの同窓会コーナーを充実させる。				
	4) ①地域の清掃活動やイベントなどのボランティア活動を通して、地域との連携を図る。	4) ①辻駅周辺の清掃活動は1・2学期に実施した。3学期も実施予定である。また、福祉施設等でボランティア活動を行った。その他、環境防災委員が三好市社会福祉協議会井川支所での防災イベントに参加した。また、辻校で開催したピアノコンサートに地域住民が参加した。	②防災講演会では認定特定非営利活動法人とくしま県民活動プラザの協力により防災に対する知識を得ることができた。		
	②地域防災推進事業を通して、地域と連携した活動の推進に努める。				

職員のワークライフバランス実現のために、働き方改革への推進を図る	1) 勤務時間の管理と意識改革 2) 業務改善の推進と外部人材等の活用	評価指標 1) ①教職員アンケート「夏期休業中の学校閉庁日を有効に活用できている」 80%以上	評価指標の達成度 1) ①今年度はお盆期間中の2日間に加え、冬季休業中の年末4日間を学校閉庁日とした。評価指標は「だいたい当てはまる」以上が100%であり目標は達成できた。	(評定) A	・業務改善をさらに進め、生徒と向き合う時間を確保してほしい。 ・教員のワークライフバランスを向上させるためには、部活動では、休日を週に1回でも作るべきだ。生徒にとっても、良いと思う。	1) 働き方改革の更なる推進にむけて、年休等を取得しやすい雰囲気作りに努める。 2) 職員数が少ないため、校務分掌の見直しなど、削減できる業務の更なる洗い出しを行う。また、外部人材の更なる活用について検討を行い、職員の負担軽減に取り組む。
		②教職員アンケート「ノー部活デーを月1回以上設け、有効に活用できている」 80%以上	②「だいたい当てはまる」以上が100%であり、学校全体で取り組みを進めることができている。			
		③教職員アンケート「半日単位や時間単位の休暇の利用ができている」 80%以上	③「半日単位や時間単位の年休」については「だいたい当てはまる」以上が87.6%であり、休暇を有効活用できている。			
		2) ①教職員アンケート「会議の精選や会議時間の短縮が図られている」 80%以上	2) ①会議時間については回数を減らし、予定時間内の終了を目指した。「だいたい当てはまる」以上が87.5%であり、目標は達成できている。			
		②教職員アンケート「スクールカウンセラー等との連携が図られている」 80%以上	②スクールカウンセラーは週1回水曜日の勤務であるが、緊密な連携は本校の特徴でもある。「だいたい当てはまる」以上が87.6%であり、今後も緊密な連携を行う。			
		活動計画 1) ①夏期休業中の学校閉庁日の設定 ②ノー部活デーの設定 ③半日単位や時間単位の休暇の利用促進 2) ①会議の精選や会議時間の短縮の推進 ②スクールカウンセラー等、専門家との連携	活動計画の実施状況 1) ①8月14~15日と12月25~28日の計6日間を閉庁。 ②毎月第4月曜日を基本日として設定。 ③機会を見て呼びかけを行った。 2) ①会議時間を設定し、時間内終了を目指した。 ②養護教諭を中心とした緊密な連携が取れており、有機的に機能している。	(所見) 教職員の働き方改革の推進に向けて、今年度は、冬季休業期間中に4日間の学校閉庁日を新たに設定した。部活動や進路指導等のために、全員が休暇をとることはできないが、一定の効果はあった。また、昨年度から電話対応時間(午前7時30分から午後5時まで)を厳守することで、教職員が生徒と向き合う時間や、教材研究等の時間の確保に努めた。		

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった